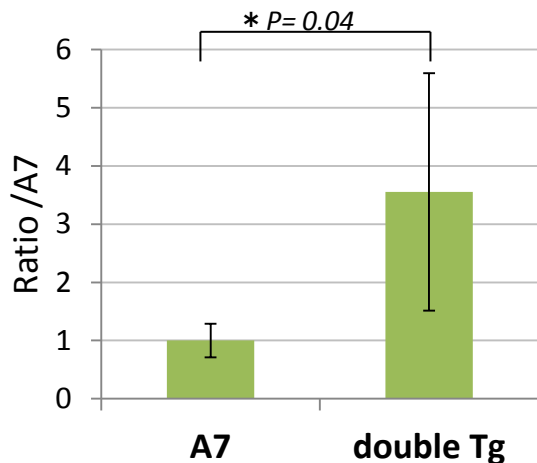


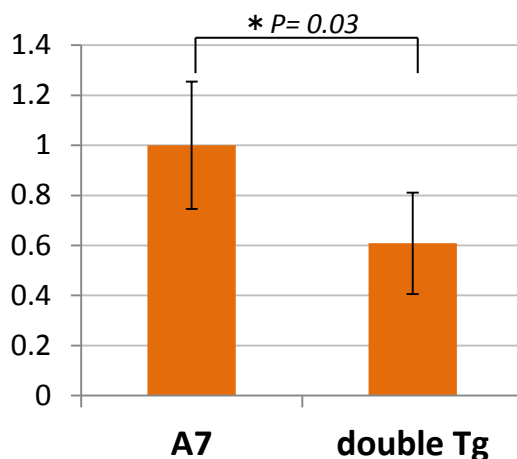
CLACはアミロイド斑の成熟を促進し、可溶性Aβ量を減少させる

研究分担者 東京大学大学院医学系研究科・神経病理 岩坪 威

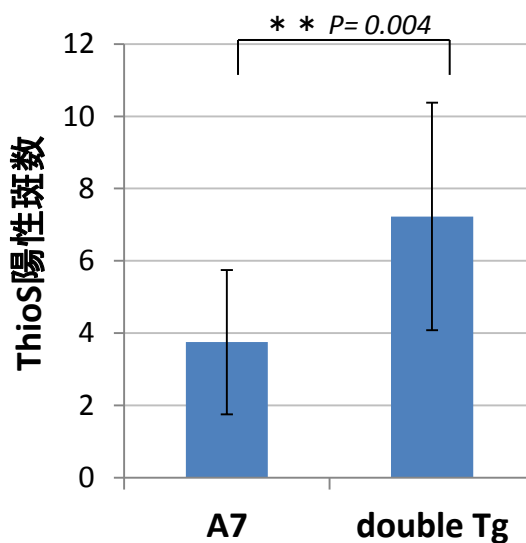
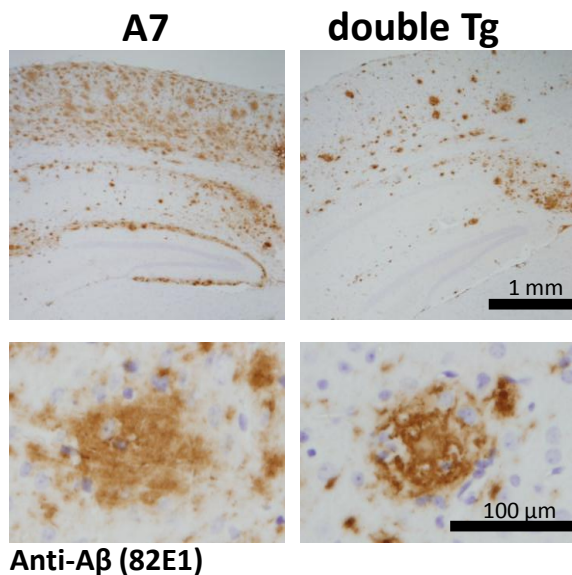
9ヶ月齢における不溶性Aβ量



18ヶ月齢における可溶性Aβ量



18ヶ月齢におけるアミロイド蓄積形態の変化



解説

1. Aβの線維化過程はAD発症に重要である。またCLACはAβに結合し、老人斑アミロイドとして蓄積するタンパク質である。
2. ADモデルマウス(A7)とCLAC-P Tgマウスのdouble Tgマウスを作出し、CLACがアミロイド蓄積初期には不溶性Aβ量を増加させ、また後期にはオリゴマーを含む可溶性Aβ量を減少させること、Aβ蓄積をコアのあるコンパクトな形態に変化させることを示した。
3. この結果は、CLACがアミロイド斑の成熟を促進し、可溶性Aβの量を減少させる効果を有することを示しており、CLACが脳に保護的に働いている可能性を示唆する。